

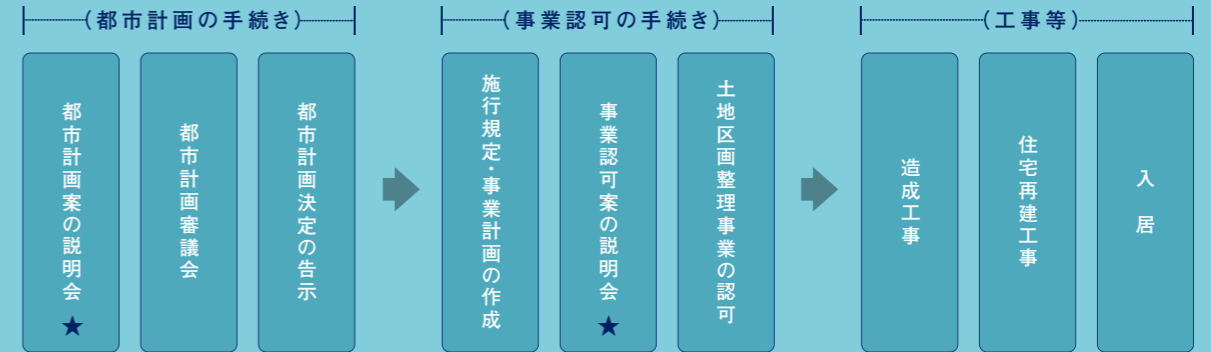
特集：東北復興ソリューション

パナソニックは、コーポレートプロジェクトとしてグループ全体で東北復興に取り組み、役立ちを通じて社会責任を果たすことを使命と考え、当社のソリューションを提供しようとしている。

今回はその事例の一部を紹介する。東北三県では復興まちづくりのために、51地区で土地区画整理が計画された。

2013年9月末段階で、事業化の段階に達しているのは90%の46地区、造成工事に着手したのは39%の20地区。その一つである岩手県陸前高田市の復興土地区画整理事業では、パナソニックの「環境計画支援VR」が用いられている。

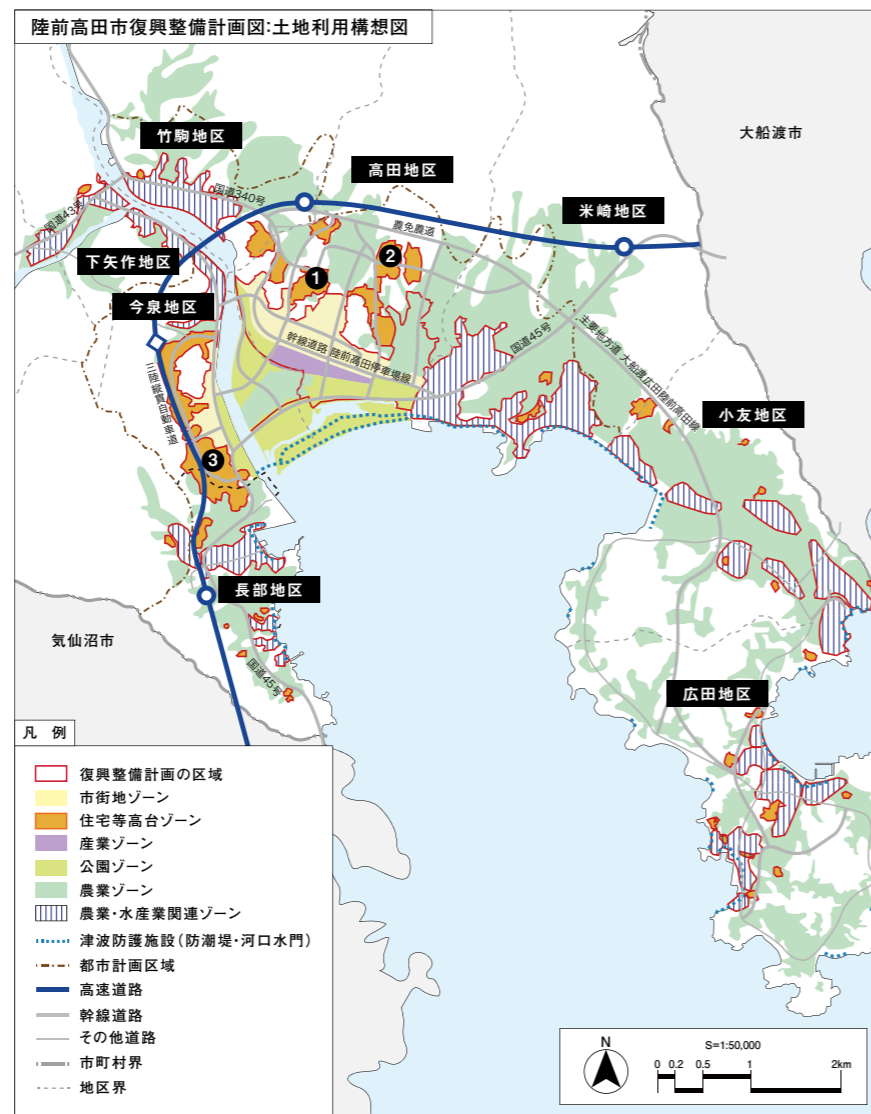
計画手続きから入居までのフロー



★：環境計画支援VRの利用が想定されるシーン

陸前高田市復興まちづくり

岩手県陸前高田市は、東日本大震災で地震と想定外の津波により甚大な被害を受けた。津波は沿岸の美しい松原を流し、地域の社会的機能を壊滅させ、約1800人に及ぶ死者・行方不明者を出した。この被災地における復興まちづくりを円滑に推進するため、岩手県内では最も早く陸前高田市とUR都市機構との間で業務委託契約が締結された。その一環である被災市街地復興整備事業として高田地区と今泉地区の土地区画整理事業を施行。住宅街を山側の高台にシフトし、新市街地をかさ上げ地に形成することにより、多重防災型でコンパクトな「海と緑と太陽との共生・海浜新都市」の創造に向け、一丸となった取り組みが推進されている。



高台移転の合意形成にVRを活用

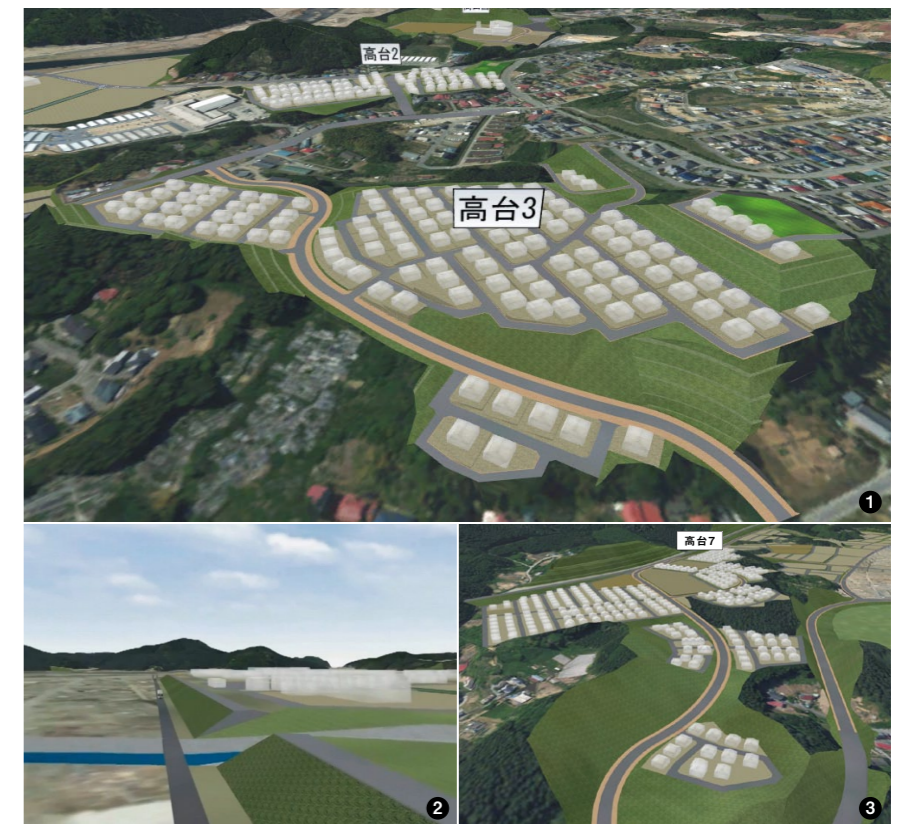
東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市では、新しいまちづくりを進める取り組みが進んでいる。高田地区と今泉地区では、復興土地区画整理事業として事業認可を受け、一部で造成工事を開始。大規模な土木工事による高台の移転先造成など、新たな市街地整備では、周辺環境や景観も大きく変化する。このため、計画されているかさ上げ地の盛り土の高さや造成される高台の状況などのイメージを掴みやすく伝えるためパナソニックの環境計画支援VRが活用されている。視点を多様に変え、鳥瞰や歩行者の目線で確認できる機能を活かし、市民向け事業計画(案)説明会における計画レビューや、陸前高田市のホームページでの説明映像として利用されている。



陸前高田市ホームページ「新市街地3Dイメージ映像」ではVRデータにナレーションを加えた動画が公開されている



陸前高田市復興まちづくり
事業施行者／陸前高田市
事業受託者／独立行政法人都市再生機構



環境計画支援VRによって作成されたイメージ 左図 ①高田地区高台 ②高田地区かさ上げ地 ③今泉地区高台